

日本大学三島高等学校 同窓会会報 第42号



「巳年に 思う事」

会長 川口 功一

第3期生 (小田原市在住)

自然・政治・経済・生活・スポーツのすべてに揺れ動くメディア報道が毎日のように目に飛び込んできます。

東日本大震災の復興の遅れは阪神淡路大震災の復興から比べると大きな差があるように感じますが、何がネックとなって進まないのでしょうか。ただその一方で、ある新聞記事に目を止めました。内容は宮城県警の科捜研に勤務内定の富山大学4年の女子学生のことです。彼女は東日本大震災で勤め先にいた母親を失っており、行方不明になった母親を捜す警察の努力と評判の科捜研ドラマと一緒に見ていた母親とが重なって犯罪鑑識(法医学)の技術員になることを決心したようです。一歩ずつ歩みを進める様子がうかがわれます。

さらに世の中の情勢に目を移しますと、アメリカではオバマ氏が大統領に再選され、2期目4年の政権を始動させました。日本国内においては自由民主党が、3年半下野した政権を奪還し、アベノミクスは経済界からも多くの期待が寄せられています。一方、生活面では社会保障制度の問題や消費税・自動車取得税・自動車重量税・復興税など地方自治体の収入にも直面する多くの課題が山積しています。また東日本大震災の影響による破壊されたままの発電所・放射能の問題。さらに原発の稼働に

関する問題については、将来の人類の健康を優先するのか、それとも経済を優先するのかということで、選択の判断が難しいところです。私見ですが、判断される議員は、政権与党よりも人物評価で考えた方が良いでしょう。これは経験上確かです。

さて、三島の学園へ目を移しますと、かつて私たちが目にした景観とは打って変わって新校舎の建築、グラウンドの整備に伴い、より近代的な学校の形態となっています。今後は霊峰富士を仰ぐグラウンドの芝生化、体育館(アリーナ)の建設が計画されているようです。現在、新校舎内にあります同窓会用の部屋も、活用されていませんので気軽に同窓生が使用可能な形態に変えてゆくプランも出来上りつつあります。

同窓会では、総会を現行の10月実施の体制から6月に行うように変更することを決め、事務局の方々にもご努力をいただいているところです。このねらいは各支部の活動の活発化を図るため、予算立てを行いやすくするという点にあります。また諸先輩方に築き上げていただいた同窓会は、時の歩みとともにかわった現在の同窓会活動の状況に合った規約へとすべく準備をしています。今年の干支である巳年には、今までの多くの事柄(草木の成長)が極限に達して次の生命が造られ始める時期(種子ができ始める時期)という解釈があります。ここに規約改正検討委員会を立ち上げ、各委員の発言によって、より良い規約が出来上がることを期待しております。

中学・高校の在校生が、静岡県内のみならず、神奈川県内からも多くの生徒が通学していることを見ますと50余年の歴史に隔世の感があります。学業やスポーツなどの各分野において、今年こそ、目を出して日本大学付属高校として母校の活躍を期待しております。



総会にて



会長あいさつ



「夢に 生きる」

日本大学国際関係学部長
佐藤 三武朗

第53期卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。私は、仁藤芳治校長先生の後任として、昨年の10月27日から12月31日まで、約2ヶ月間、3期生でもある私は仁藤先生の実績とお考えを踏まえ、事務取扱として校長の職務を遂行しました。

母校は有り難いです。創設50周年を越えた今、5万余の同窓生がいます。同窓生は学校の宝です。世界を旅する中で、欧米の学校を見て回りましたが、どの国も同窓生の絆は強く、母校の歴史と伝統を担う意欲の旺盛さに驚かされたものです。

皆さんもいよいよ、同窓生の仲間入りです。先輩の同窓生は、各地域で活躍し、その存在は目を見張るほどです。政治家、起業家、教職員、医師、歯科医、ビジネスマン、自衛官、警察官、自営業など、多種多様な職種で活躍し、多大な評価を得ています。日本大学の同窓生がいないと、地域社会が成立し得ないと思えるほどに活躍

しています。卒業生の皆さんも先輩諸氏に負けずに、将来は大活躍すると期待しています。

卒業に当たり、私は皆さんに、日本大学の使命である「自主創造」という言葉を贈りたいと思います。自主創造とは、人の力に頼らずに、自身の力を持って、人生を切り開いてゆくという考え方です。

私が好きな日本大学の精神に、「文武両道」という言葉があります。これは日本大学の学祖である山田顕義先生が、「ナポレオン」をいう詩の中に使用している言葉です。「文」とは、教養を指します。教養とは、古今東西の歴史や文化の知識に長けていることです。「武」とは、スポーツを指します。心・技・体という言葉がありますが、スポーツを通して、健全な肉体を有することの重要性は、古代ギリシャの時代から追求されて来ました。現在でも重んじられ、オリンピックの精神となって、世界の人々に受け入れられています。

私は卒業生の皆さんが、心身ともに健康で、健やかな社会生活を送ることを祈っています。生涯を通して、日本大学とは切っても切れない関係となりました。これは素晴らしいことです。日本大学は皆さんを見守っていきます。皆さんは、日本大学三島高校の卒業生として、誇りを持って、夢の実現に向け、自身の能力を最大限に生かし切りたいと思います。

活躍を祈念します。

第12代高等学校・ 第4代中学校校長に 津幡晴樹先生が就任



平成25年1月1日付をもって、日本大学藤沢高等学校教頭の津幡晴樹先生が、本校校長に就任しました。本校の卒業生でもあります津幡先生は、今まで日大藤沢高校一筋で勤務されてきました。教科は理科（化学）をご専門としています。先生のご活躍を同窓生一同、心より祈ります。

第11代高等学校・ 第3代中学校校長 仁藤芳治先生が退職



平成24年10月26日付をもって、ご定年を迎えられた仁藤芳治先生が退職されました。仁藤先生は、長年本校の教諭として勤務され、教科は国語を担当されました。平成21年4月より本校中学校教頭から第11代高等学校・第3代中学校校長として就任され、本校の発展のためにご尽力されました。今後のさらなる活躍を同窓生一同、心より祈ります。



新入会員の言葉
「同窓生となる誇りをもつ」

生徒会長
 勝又 臣楠

春霞のただよう季節となりました。私たちは3年前、桜の舞う中を期待と不安を背負いながら高校生になりました。あの時から多くの人と出会い、苦しいことや楽しいこと、数多くの経験をしました。その一つ一つの経験や高校生活で出会うことのできた多くの友人は、私たちの大きな財産となっています。この財産は、これから社会に出ていく私たちの大きな支えになってくれることでしょう。

日本大学三島高等学校を卒業する私たちは、晴れて同窓会の会員となります。同窓会を作り上げた先輩方から受け継がれてきた伝統を、今度は私たちが受け継いでいくことになります。これまで同窓会を作り上げてくださった先輩方とともに、一人一人が同窓生になるという誇りをもっていきます。また私たちが先輩たちのことを見て成長してきたように、今度は私たちが後輩のことを導いていかなければなりません。そのためにも、自分に自信を持ち、社会という新たなステージの中で活躍できるよう努めます。

最後になりますが、私たちの母校である日本大学三島高等学校の発展に寄与できるように努力することを誓い、第53期生代表のあいさつといたします。

第53期生 幹事一覧

代表幹事 勝又 臣楠 (7組)

クラス幹事

1組 前田 唯那	11組 森 裕太郎
2組 鈴木 和也	12組 小野寺 葉
3組 佐野 弘顕	13組 小山内牧子
4組 石田みなこ	14組 小早川 馨
5組 伊倉 翼	15組 庄司 瑞季
6組 海野 剛良	16組 廣瀬 拓也
7組 下山 優人	17組 八木 玲美
8組 藤川 和輝	18組 坪内 佑紀
9組 深澤 健	19組 高橋奈津子
10組 門口 稚奈	20組 日吉 優太



新入会員を迎える
「日大三島同窓生としての誇り」

第31期生
 久郷 哲明

日本大学三島高等学校第53期卒業生のみなさん、卒業おめでとうございます。同時に同窓会への入会を心より歓迎いたします。

と言われてもみなさんにはまだ「日大三島の同窓生であることの意味」がピンと来ないかもしれません。22年前高校を卒業した時の自分がそうでしたから…。自分で言うのもなんですが、高校在学中は生徒会執行部の一員として、また放送部員として、どっぷりと「日大三島」色に染まった生徒だったという自覚があるにもかかわらず…です。

その意義がだんだん分かってきたのは、実は最近のことかもしれません。7年前自分の結婚式での謝礼のコメントを考えていてふと気がついたのです。そのコメントで感謝すべき人のほとんどが「日大三島」に関係しているのだということ…。

17年前に父を亡くした私にとって「父親代わり」と言えた

のは、仲人をお願いした高校1年次の担任の野村先生を始め、当時私は中学校1期生の担任でしたが、その中学初代の教頭先生である渡邊博夫先生や、2代目の教頭先生で高校3年次の担任でもある永井先生でした。そしてひとりっ子の私にとって、高校時代の生徒会の仲間や放送部の仲間は兄弟にも勝る絆で結ばれた存在でした。大学の友人もまた、なぜ彼らに巡り会えたかと言えばそれは日本大学へ進学したからであり、その原点は当然日本大学三島高校にあるのです。日大三島を卒業していなかったら、この学校を通して巡り会えた人たちとの出会いがなかったら、今の私は居なかったと言っても過言ではないのです。たとえ母校の教員という道に進んでいなかったとしても私が結婚式で感謝したかった人のほとんど、特に恩師や友人の顔ぶれは変わらなかったはず。日大三島の「人と人との関わりを大切に」校風が、私に一生変わらない「絆」をもたらしてくれたのだ。年齢を重ねるごとに、この思いを強くしています。

最後にみなさんに私が中学校時代の部活の顧問の先生から言われた「自分が出た母校には誇りを持って」という言葉を贈ります。みなさんが、日大三島の卒業生として誇りを胸に社会で活躍してくれれば、さらに日大三島高校は輝きを増し、皆さん自身この学校の同窓生であることを一層誇らしく感じるという好循環を生むでしょう。母校に誇りを持つことは自分の人生に誇りを持つことに繋がっていくのだと、これもまた年齢を重ねるごとに実感できるはず。皆さんの今後の活躍を心よりお祈りします。…ちなみに私に「母校に誇りを持って」と教えてくれた先生も日大三島高校の同窓生でした。

同窓会総会

平成24年10月19日(金) 於 三島プラザホテル

同窓会総会を平成24年10月19日(金)に三島プラザホテルにて開催した。総会は川口会長のあいさつに始まり、議事では平成23年度の活動報告・決算、平成24年度事業計画・予算・役員選出などの案件がすべて承認されました。ご来賓として日本大学国際関係学部部長であり、3期生である佐藤三武朗先生よりごあいさつをいただきました。また今回の総会には、このたびロンドンオリ

ピックに出場し水泳競技において活躍された高桑健選手をお迎えして、表彰を行いました。

総会後の懇親会では、会長のあいさつや還暦を迎えられた方々(11期生)への記念品贈呈などがあり、和やかに進みました。毎年恒例となっている空くじのなしのくじ引き大会では、静岡支部が企画、大いに盛り上がりま



還暦のお祝い



表彰光景

平成23年度 事業報告 (平成23年4月～平成24年3月)

1. 総会 平成23年10月21日(金) 三島プラザホテル

- (1) 開会の辞
- (2) 会長挨拶
- (3) 日本大学国際関係学部学部長挨拶
日本大学三島高等学校・中学校校長挨拶
- (4) 議事
 - ①平成22年度事業報告 ②平成22年度決算報告
 - ③役員改選 ④平成23年度事業計画 ⑤平成23年度予算
- (5) 閉会の辞
 - ・懇親会 ①開会 ②挨拶 ③乾杯 ④懇親会
 - ⑤校歌斉唱 ⑥閉会

2. 幹事会・役員会

- (1) 平成23年 6月21日(火) 母校会議室 三役会
- (2) 平成23年 6月30日(木) 母校会議室 顧問・役員・幹事会
- (3) 平成23年 9月14日(水) 母校会議室 顧問・役員・幹事会
- (4) 平成23年12月27日(火) 母校会議室 同窓会三役会
- (5) 平成24年 1月31日(火) 母校会議室 顧問・役員・幹事会
- (6) 平成24年 3月 9日(金) 三島中央町喫茶室 次期三役打ち合わせ

3. 事業

- (1) 平成23年5月29日(日) 朝霧カントリークラブ(荒天中止)
10支部合同事業同窓会ゴルフ大会
- (2) 平成23年10月23日(日) 朝霧カントリークラブ
静岡・沼津・富士支部合同事業同窓会ゴルフ大会
- (3) 平成24年2月18日(土) 母校8号館3階
 - ①第51期生同窓会入会式
奨学金 鈴木 慎司(3-7) 廣庭 聡(3-15)
杉山 颯(3-15)

奨励金 三枝花業(34・放送部)

②記念講演会 講師:石川 嘉延

(前静岡県知事・日本大学国際関係学部客員教授)

タイトル 「窓を開けてみよ。世界は広いぞ!」

(3)平成24年 3月 1日(木) 同窓会会報第41号発行

4. 支部総会(開催順)

- (1) 女子部
総会 平成23年 5月22日(日) 母校桜陵寮
- (2) 三島支部
総会 平成23年 5月27日(金) 日本大学国際関係学部 15号館
パノラマラウンジ
- (3) 富士支部
総会 平成23年 6月 4日(土) ペアーステージノイ
- (4) 静岡支部
総会 平成23年 6月10日(金) ホテルプリヴェ 静岡ステーション
- (5) 御殿場・小山支部
総会 平成23年 6月24日(金) ホテル御殿場館21
- (6) 沼津支部
総会 平成23年 7月22日(金) 沼津東急ホテル
- (7) 裾野支部
総会 平成23年10月 2日(日) 勢力
- (8) 小田原支部
総会 平成24年 2月25日(土) 魚がし

5. その他

- ・静岡支部 平成23年12月4日(日)
東京下町バス旅行会 柴又・巢鴨

同窓会入会式・記念講演

平成25年2月16日(土)

同窓会入会式を母校8号館講堂にて行い、第53期生712名の新入会員を迎えました。入会式では同窓会長による新入会員への歓迎のあいさつがあり、卒業記念品を贈呈しました。また新入会員を代表して53期代表幹事となる勝又臣楠君が誓いのあいさつをしてくださいました。さらに同窓会では表彰規定により、奨学金を加藤大輝君、堀田盛弘君の2名に渡しました。

入会式後の記念講演は、講師に日本大学芸術学部を卒業、「カントク」の愛称で知られ、サングラスにちよび髭がトレードマークであ

る山本晋也氏をお迎えして実施しました。タイトルは『山本晋也のマジメな社会学』。オープニング前からハプニングがありましたが、会場を沸かせつつ、会場の皆さんは、興味深く熱心に聞き入っていました。



卒業記念品贈呈



新入会員代表あいさつ



記念講演

同窓会支部を訪ねる(2) ～田方支部の活動報告～

同窓会報第40号以来の企画です。同窓会各支部の活動の様子を報告する第2回。今回は富士支部の様子を記事にしましたが、今回は私も所属する田方支部について見ていきます。

田方支部は古い。1971(昭和46)年3月、どこよりも早く支部を立ち上げて活動を開始。伊豆箱根鉄道駿豆線沿線の函南町から韮山・伊豆長岡・大仁・修善寺、さらに中伊豆・天城湯ヶ島他、旧田方郡各町村出身の同窓生約8000名がいる中、現在も活動している。伊豆地区の広い地域をまとめていくことは難しい。そこで旧町村単位で代表者を決めていたが、地道な活動である。

現在、支部長は4代目、4期生の宮澤正氏。前支部長の内田敏明氏から活動を引き継ぎ、同窓会支部活動の活発化を考えている。目下の課題は何か。多くの同窓生が集まる機会をどのように作るのか、さらに若い世代の人たちがどのようにすれば同窓会活動に参加できるか、という点にある。ここ数年、支部活動の活発化をねらい、毎年、集まることは難しいも

の、親睦の場を2年に1回は設けている。同じような顔ぶれが並ぶのは次の課題である。何とか費用負担を少なくし、若い世代の人たちの交流の場としたいのが願いである。一方、昨年、本部の協力を得たゴルフコンペを大仁カントリークラブで開催。新たな取り組みを打ち出した。田方支部のみならず、数多くの参加者が集まり、感謝しています。

同窓会活動の存在を知ってもらうこと。支部総会参加における懇親会費用の個人負担をいかにおさえ多くの人に参加してもらえるかなど、課題は多くあるが、地道な活動を通じて多くの方々に同窓生のつながりを知っていただけるように努めていきます。(T)



懇親会の光景

同窓会役員一覽

Table with 4 columns: 役職, 氏名, 支部長, 氏名. Lists board members and their terms.

(平成 24 年度)

短 信

ご定年を迎えられ 退職される先生方

平成24年度、仁藤先生を含む5名の先生方がご定年を迎えられ、退職されます。

- 杉山 徹先生 (数学) 平成24年 4月16日付
渡辺 透先生 (数学) 平成24年 4月10日付
鈴木隆夫先生 (英語) 平成24年 9月26日付
反町 宏先生 (地歴公民) 平成24年12月31日付

先生方のこれからのご活躍を同窓生一同、お祈りいたします。

日本大学三島高等学校 同窓会規約

- 第一章 総 則
第一条 本会は日本大学三島高等学校同窓会と称する。
第二章 機 関
第三条 本会役員は、日本大学三島高等学校の卒業生をもって正会員とし、現教職員および元教職員をもって特別会員とする。
第三章 役 員
第十九条 本会は左記の役員を置く。
第四章 会 計
第二十七条 本会の経費は会費ならびに寄附をもってこれに当てる。
第五章 表 彰
第三十条 本会に貢献したものは会長が幹事会の議により、総会の承認を得てこれを表彰することができる。

第53期生同窓会入会金の納入のお願い

日本大学三島高等学校同窓会では、第53期生の入会にあたり、同窓会規約第28条にもとづいて、終身会費1万円を納入することをお願いしています。

日本大学三島高等学校 同窓会会報 第42号

平成25年 3月1日発行 発行所：川口 功一 編集：事務局

〒411-0033 静岡県三島市文教町2丁目31番145号
TEL 055 (988) 3500 (高校事務局) FAX 055 (988) 3517
http://www.nu-mishima-dousou.jp/